

# カラスのメモリー

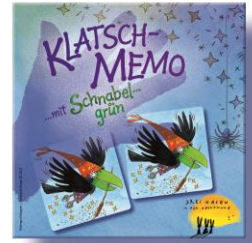
DREI HASEN 社:ドイツ

年齢:4才位～ 時間: 約10～15分  
人数:2～4人 セット内容:カード64枚(32ペア)

## どんなゲームかな？

魔法が使えるカラスは、空から木樫に挟まったブタや、ウサギ、おいしそうな赤い実のなった木など色々なものを見つけます。私たちがカラスを見習ってすばやくペアになったカードを見つけて取りに行きましょう！

このゲームは、ちょっと変わった神経衰弱です。カードは次々に表になっていきます。場のカードをよく見て、同じイラストのカードが2枚場に出たら、素早くパーンと両手を使って取りに行きます。カードをたくさん取った人が勝ちです。



## 準備

すべてのカードを裏返しにして、机の上でよく混ぜ、カードどうしが重ならないようにして並べます。

- ＊始めてこのゲームをするプレイヤーがいたら、よく似たカードがあるのでゲームを始める前にカードの絵をみんなで見てみましょう。
- ＊右の絵のようにカードを整理して並べるとゲームの難易度は低く、バラバラに並べると難易度は高くなります。



## ゲームの進め方

- ・一番若い人から時計まわりで順番に、1枚カードをめくります。そしてその場に開いたままにしておきます。次のプレイヤーも同様に、1枚だけカードをめくり、さきほどと同じように開いたままにしておきます。このように、カードは次々と表向けになっていきます。

### ・カードの取り方

すでに表に向けて置いてあるカードと、新たに表に向けたカードの絵が同じだったら、すべてのプレイヤーはこの両方のカードを、両手を使い、パーンとたたいて取りに行きます。

**つまり、1人で2枚のカードを取るためには、両手を使わなくてはなりません。**

- ・次の場合、カードをもらうことができます。

- ＊正しくペアになったカードに一番早く手を置いた人
- ＊何人も重ねて手を置いた時は、そのカードの上で、一番下にある手の人
- ＊1枚のカードに複数手が重なった場合、カードを一番広く手でおおった人
- ＊2枚のカードそれぞれに、それぞれ手を置いた二人

## ゲーム終了と勝者

すべてのカードが取られたら、ゲーム終了。一番多くのカードをとったプレイヤーの勝ちです。

### ★他の遊び方

- ・年齢等に応じて、カード枚数を少し減らしてプレイしてもいいです。
- ・プレイヤーが、一度に2枚のカードを表に向けてまた裏に返す従来の神経衰弱もできます。

～「カラスメモリー」はゲーム考案者が我が子のために描いた、魔法を使うカラスの絵本

『Schnabel grün』 みどりくちばしカラスのおはなしを元にしてできたものです～

<あらすじ> 赤鼻の魔法使いの飼っている緑色のくちばしをもつカラスは、魔法の杖(ガマの穂)を口にくわえて、毎日、ボートに乗って旅をしていました。

ある日、カラスは空を飛んでいると、木樫に挟まって泣いているブタを見つけました。そこで口にくわえている魔法の杖を使い、呪文を唱えると、ブタは木樫ごとサクランボの木の上に飛ばされた後、木樫は壊れブタは地面に落ちました。落ちたところにいたのはハリネズミ。ブタはハリネズミの針が背中にささってしまいました。すると今度はコウノトリが、ブタとハリネズミにどっし～ん！とぶつかってきました。

あらあら！「ハリネズミの針をもちコウノトリのくちばしと足を持つブタ」「コウノトリの羽をもつハリねずみ」「ブタの口と足を持つコウノトリ」になってしまいました。さあ、大変です！これにはカラスも困ってしまいました。と、そこへ、赤鼻の魔法使いがやってきて、カラスから話をきき、「心配することはないよ」とすぐさま星が付いた魔法の杖を使い、呪文を唱えると、あっという間に、みんな、元の姿にもどることができました。めでたしめでたし。